



9月は、久しぶりに全体での包括ケア会議を行いました。コロナはまだ収束していませんが、また11月にも集まって開催する予定です。

さて、10月の包括ケア会議は、個別検討会議となり、「施設入所は決まっているが、入所するにあたり、ご親族の協力が得られず、キーパーソンが見つからずに困っているケース」について話し合いました。

★キーパーソンとなる方がいないと困ることについて検討

施設入所にあたり、キーパーソンとなる方がいないと、入所後に本人が入院する場合や亡くなった場合に対応できる人がいないので、本人も施設も困るという意見がでました。

今回のケースでは成年後見制度を利用することで施設へ入所ができました。

成年後見人制度とは、判断能力が低下した方を法律的に支援する仕組みですが、後見人の業務はあくまで生前の手続きや財産管理です。成年後見人制度は万能ではありませんので、ご家族・ご親族の役割を担うことができません。

行政に任せると話される方もいますが、ご家族・ご親族の代わりにはなれません。これから、ご家族・ご親族と疎遠で協力が得られない方も増えてくると思われます。

そこで、今後の対策として、ご家族・ご親族の方と疎遠な方のケアを担当することになったら、①本人の意思をこまめに確認し、書面等にして幅広い専門職の協力が得て情報を共有しておく。②親族に連絡を試みて協力可能なことを確認しておく。本人からご家族・ご親族に自身の意向を伝えてもらっておくことが大切であるという意見がでました。

＊＊9月の検討事例の経過報告＊＊

★「家族間で問題を抱えているケース」

包括支援センターや関係機関で連携を取りながら訪問し、世帯それぞれに対するアプローチを模索しています。



検討事例
募集中

困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡よろしくお願いたします。